

C-39 足部動作と足部着用物について(第3報)

梶立米沢女短大 徳永幾久 ○山水きぬ 石山和子

目的 前報のとおり、静止時および歩行時の接地面積を計測した結果、高年齢になる程歩行時の足蹴り接地面積が足部外側部に伸長するのがみられたので、更に補足となる基準線を加え、指間の開き状態と接地部位の移動伸長の状態を観察し、老令者と青年の歩行を足型プリントにより比較した。更に対象者にタビックスをはかせ、日常生活における足部動作の状況を汚染部位および度合によつて比較し、検討した。

方法 対象者に60才主婦5人を選び、第1報に提示した計測点を標示したフクスケタビックス(ナイロン100%)を20日間、1日平均15時間使用させ、使用前後の厚さ寸法、汚染部位、汚染度など比較した。使用器具は厚さ測定器、汚染度スケール、フラニメータ。また対象者には作業時間、強度、使用感想など記録させ資料とした。次に第2報の基準線に加え、踵中心点から3,4,5足指中央点を結んだ線を補助線とし、足型プリントによる指間距離を測定した。

結果 ①第1足指は各動作に対し年令別に差異がなく、最高足蹴動作の場合第2指に接近し歩行時は足部内側方向に移行する。②第3指は70才は各動作に変化をみせず、低年齢は動きが大きく第4方向に移行する。③第4,5指は高年齢は殆ど動かず、低年齢で最高蹴上げの際第4指の動きがみえる。全般的に70才ほどの動作に対しても足指は動かず、低年齢代では第3,4指が動作の種類により足部外側または内側に變化するのがみられ、老人は指よりも足裏指球部の外側部をより多く使つて歩く事が推察され、タビックス汚染部位にもこの状態がみられた。